

国立民族学博物館研究報告別冊 no.019-1; まえがき

著者	大丸 弘
雑誌名	国立民族学博物館研究報告別冊
巻	019
号	1
ページ	3-3
発行年	1998-03-25
URL	http://hdl.handle.net/10502/3647

1. ま え が き

本書は1996年12月現在、国立民族学博物館衣類収蔵庫に収蔵されている衣服標本について、その固有属性の分析結果を添えての全リストである。

このカタログを民博の所蔵する衣服標本のカタログとしてみる場合は、次の点に留意していただきたい。

1. 衣服の範囲に含まれる標本で、繊維製品以外、および藁製品については、衣類収蔵庫以外の場所に収納されている。これらは、本カタログの対象外である。

2. かぶりもの、はきもの、もちもの、宝飾品など、広義のいわゆるアクセサリーは、対象外である。

3. 本来的に衣服として使用され、あるいは作製されたモノかどうか明らかでない布地は、一定の判断基準に照らして検討の上、単なる布地類に含め、対象外とする。

4. 人形衣裳、玩具、小型の模造品については、原則として対象外である。

本カタログは、当館所蔵衣服を、一般利用者が検索するための便利性を第一の目的として作成された。その意味ではあとでのべるように、1991年に発表された『固有属性分析による衣服標本カタログ』とはちがう目的のものであり、続編ではない。

一般利用者のための検索の便利性という点で、1991年版との大きな相異は次の2点である。

1. 全標本に新しく、なじみやすい標準衣服名をあたえたこと。

本カタログでは、管理上与えられた民博標本名よりも、新しいこの標準衣服名を優先させている。標準衣服名の根拠については、日本、日本以外、とに区別し、それぞれの分析者が解説している。

2. 属性分析を簡略にしたこと。

1991年カタログは、西洋型衣服作成技法の、世界的拡散の態様を確認する、という目的のもとに、それに必要な分析項目を設定した。

今回は博物館標本の利用者の、最大公約数的な検索需要を想定し、あまり一般的でない分析項目は削除した。

なお、本カタログはデータベース化を計画している。近日中に、国立民族学博物館所蔵衣服標本資料データベースとして、公開される予定である。

大丸 弘